土地利用からみたグリーンツーリズムの持続性に関する研究
―群馬県みなかみ町「たくみの里」を事例として―

○田中沙知*　中島正裕**　辰己賢一**

*東京農工大学大学院農学府　**東京農工大学大学院農学研究院

1. 研究背景

グリーンツーリズム（以下、GT）の中核的価値＝“美しい田園景観”

適切な農地保全が前提

しかし

中山間地域では･･･担い手不足、耕作放棄地、獣害、などが深刻化

そこで

GTと地域農業の持続性を土地利用の側面から一体的に検討することが重要である

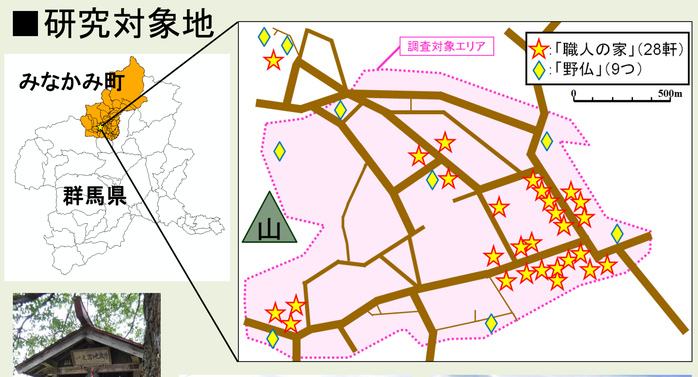
研究目的

GT先進地域を対象に

目的①：全域の土地利用状況と観光資源の関係性の解明
目的②：個別集落の営農状況の解明
目的③：GTの持続性の確保に向けた課題への対策の検討

2. 研究方法

■研究対象地



野仏8番
「一之宮地蔵尊」

職人の家「木工の家」

周遊馬車と田園景観

群馬県みなかみ町
「たくみの里」

- 4集落（須川集落・谷地集落・東峰須川集落・笠原集落）で構成
- 昭和60年の開設以降、年間30万人が訪問するGT先進地域（第九回オーライ！ニッポン大賞グランプリ受賞）
- 地域内に点在する野仏(9つ)・職人の家(28軒)を巡りながら楽しむことができる美しい田園景観は来訪者の満足度が高い（中島ら、2006）
- 後継者不足や、獣害・耕作放棄地の発生が、近年住民から指摘される

■調査方法

- 土地一筆調査：たくみの里内の125.9ha（1633筆）データ分析にはArcGIS10.1を使用

調査時の様子

- ヒアリング調査：㈶みなかみ農村公園公社（以下、公社）、谷地集落住民（18名）

3. たくみの里全域の土地利用状況と観光資源の関係性の解明 （目的①）

3.1 たくみの里全域の土地利用状況

土地利用状況を4分類14細目に区分すると…

	4分類	面積(ha)	割合(%)	農地内割合(%)	14細目	面積(ha)	割合(%)
農地	作付地	76.9	61.0	78.3	1:水田	32.0	25.4
					2:畑地	33.1	26.3
					3:果樹	7.7	6.1
					4:その他作付け	4.0	3.2
	管理のみ農地	6.6	5.3	6.8	5:管理のみ農地	5.6	4.5
					6:管理された林地化農地	1.0	0.8
	耕作放棄地	14.6	11.6	14.9	7:耕作放棄地（草本）	10.2	8.1
					8:耕作放棄地（笹・桑）	2.1	1.7
					9:耕作放棄地（林地化）	2.4	1.9
農地以外	農地以外	27.8	22.1		10:宅地	16.4	13.0
					11:荒廃した宅地	0.5	0.4
					12:都市農村交流施設	4.7	3.7
					13:寺社	1.9	1.5
					14:その他	4.4	3.5

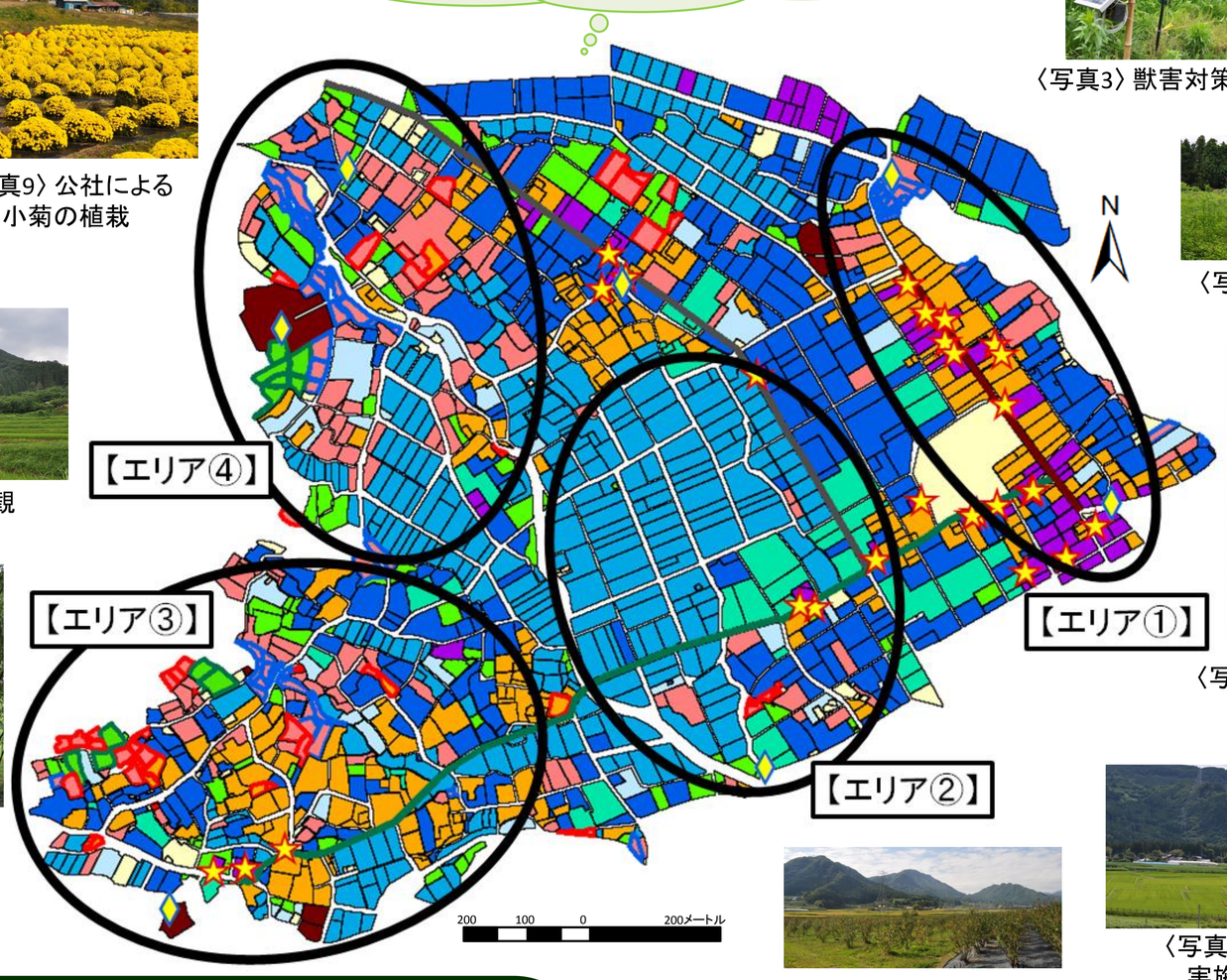
3.2 土地利用状況と観光資源の関係性

GISで分布を表示

〈写真9〉公社による小菊の植栽

〈写真8〉里山景観

4つのエリア（①～④）を設定し、特徴と課題に着目すると…



〈写真3〉獣害対策をしている農地

〈写真2〉耕作放棄地（草本）

引用：たくみの里パンフレット
〈写真1〉メインストリート

〈写真6〉耕作放棄地（笹・桑）

〈写真7〉管理された林地化農地

〈写真5〉観光果樹園

〈写真4〉圃場整備実施済み水田

景観上重要なエリア②・④に着目

【エリア③：東峰須川集落】

特徴
- 宅地と畑地が混在
- 観光施設はまとまって立地し、その周辺には耕作放棄地はない

課題
- 耕作放棄地（笹・桑）が山際に多い(0.9ha)〈写真6〉
- 耕作放棄地と管理のみ農地〈写真7〉が混在

【エリア④：谷地・笠原集落】

特徴
- 里山景観が広がる〈写真8〉
- 積極的な農地保全活動
  例）公社：小菊栽培〈写真9〉
  住民：ホタルの保全
  散策路づくり

課題
- 耕作放棄地（林地化）が川沿いに多い(1.0ha)
- 耕作放棄地（草本）が道沿いに発生(4.6ha)

【エリア②：谷地・東峰須川集落】

特徴
- 大規模な圃場整備（一部、中山間地域等直接支払制度の対象）〈写真4〉
- 耕作放棄地が少ない(1.0ha)
- 観光果樹園も立地〈写真5〉

課題
- 土地一筆調査からは課題はみられなかった
  ↕
- 農地の利用・所有形態からは課題がみられる（目的②へ）

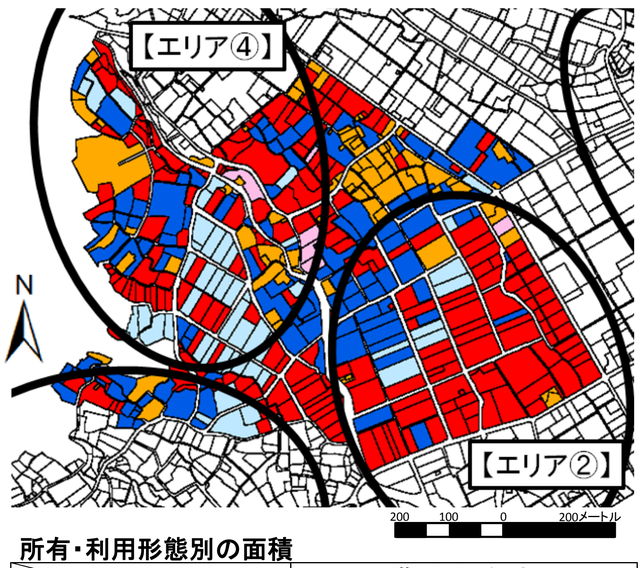
【エリア①：須川集落】

特徴
- 都市農村交流施設と宅地がまとまって立地
- 旧三国街道の宿場町の景観が残る〈写真1〉

課題
- 耕作放棄地（草本）がメインストリートの裏手に発生(1.4ha)〈写真2〉
- 獣害（サル）が深刻化〈写真3〉
  →観光客への被害も懸念

4. 谷地集落の営農状況の解明 （目的②）

■谷地集落内の農地の利用・所有形態



所有・利用形態別の面積

		農地所有者	
		谷地住民	他集落住民
農地利用者	谷地住民	11.9ha	5.0ha
	他集落住民	0.6ha	19.1ha
	農地以外	4.6ha	

【エリア②】

特徴
- 他集落住民の所有・利用農地が多く(9.0ha)、関係が複雑〔※赤色の箇所〕

課題
- 将来の農地利用計画を立てる際の合意形成に困難が予想される

【エリア④】

特徴
- 谷地集落住民が、他集落住民所有農地を多く(3.9ha)担っている〔※水色の箇所〕
  →専業農家A氏は他集落住民12名から農地3.0haを借用

課題
- A氏は高齢（69歳）で、後継者もおらず、今後の継続的な農地利用の困難が予想される

5. GTの持続性の確保に向けた課題への対策の検討 （目的③）

【エリア①】
- 観光客への安全性も考慮し、景観面では影響のない裏手の耕作放棄地であっても、農地への復元が容易な草本レベルのうちに対応する

【エリア②】
- 農地の利用・所有の関係が入り組んでいることから、農地の現状を共有し、将来的な農地保全策を検討する場を設ける

【エリア③】
- 耕作放棄地と管理のみ農地が混在している農地に関して、農地所有者の今後の農地利用の意向を共有する場を設ける

【エリア④】
- GTと関連付いた農地保全活動を主体間で連携し計画的に展開する
- 高齢の大規模担い手農家の利用農地に対する今後の対応を検討する

6. まとめと展望

■まとめ

GT先進地域であるたくみの里を対象に、GTと地域農業の持続性を一体的に考えていくことの重要性を明らかにした。

■展望

GTと地域農業の持続性と一体的に考慮した土地利用計画策定に向けた支援を行っていく。
※2014年5月に住民・行政を対象に、座談会を開催

○参考文献
中島正裕・劉 鶴烈・千賀裕太郎「来訪者の意識・行動からみた農村地域の観光資源の特性―都市農村交流による農村地域活性化の計画づくりに関する研究その1―」農村生活研究, 第50巻第1号, p31-40, 2006.9